

令和7年度 事業計画

令和7年4月1日～令和8年3月31日



学校法人 杏 林 学 園

目 次

1 教育 1

[医学部]

[保健学部]

- ・ 学部志願者を確保するための将来構想の提案
- ・ 国内外大学間連携の強化

[総合政策学部]

[外国語学部]

[医学研究科]

- ・ 大学院生確保を目指した教育・研究支援体制整備のための取り組み
- ・ 学際的な教育・研究体制を強化するための取り組み
- ・ 論文の質向上を目指した取り組み

[保健学研究科]

- ・ 大学院教育の質の向上

[国際協力研究科]

[データサイエンス教育研究センター]

- ・ MDASH リテラシーレベルの認定継続
- ・ MDASH 応用基礎レベルの認定継続
- ・ 応用基礎レベル教育の横展開の検討
- ・ オンデマンド教材の改定

[国際交流センター]

- ・ 学生の海外留学 研修の促進
- ・ 大学のグローバル化促進

[地域連携センター]

- ・ 学部間連携による学生の多様性尊重
- ・ 地域志向教育・社会貢献活動を通じた学内連携の促進

[男女共同参画推進室]

- ・ 多様性の尊重

[総合情報センター]

- ・ ネットワーク・システム・機器等の更新
- ・ DX 時代に即応した教育・研究環境等の整備・向上

2 学生受入 4

[医学部]

[保健学部]

- ・ 高大接続の推進と優秀な学生の確保

[総合政策学部]

[外国語学部]

[保健学研究科]

- ・ 社会人特別選抜や長期履修制度の広報活動強化

[国際協力研究科]

[入学センター]

- ・ 多面的・総合的入学者選抜による定員管理
- ・ 多様な学生の受入れ促進
- ・ 高大連携協定校からの入学者増

- ・信頼性の高い入学者選抜の実施
- ・円滑な入試広報・入学者選抜の実施
[国際交流センター]
- ・海外協定校からの留学生の受入強化
[高大接続推進室]
- ・ラウンドテーブル定期開催と連携協定締結校との関係強化
- ・ブリッジ授業の継続実施
- ・連携協定締結校との入試改革の展開
- ・アドバンストプレイスメントの継続実施

3 学生支援 7

- [医学部]
- [保健学部]
- ・退学防止策
- [総合政策学部]
- ・退学者防止対策
- ・教職員連携による退学者防止対策会議での検討
- ・学生との接触機会の強化

- ①資格検定試験の支援
- ②インターンシップの促進・充実
- ③SPI 等適正試験対策の強化
- ④個別相談の強化

- [外国語学部]
- [国際協力研究科]
- [学生支援センター]
- ・ピアサポート事業の継続
- ・三鷹キャンパス学生相談室の環境改善
- ・障がいのある学生への支援体制の推進
- ・退学防止対策の推進
- ・修学支援新制度や学内外の奨学金への対応
- [キャリアサポートセンター]
- [国際交流センター]
- ・留学生の支援体制の構築
- [男女共同参画推進室]
- ・研究支援/キャリア形成の支援
- [保健センター]
- ・学生健康診断の充実
- [図書館]

4 研究 10

- [医学研究科]
- ・大学院生確保を目指した教育・研究支援体制整備のための取り組み
- ・学際的な教育・研究体制を強化するための取り組み
- ・論文の質向上を目指した取り組み

- ・研究環境の整備を目指した取り組み
[保健学研究科]
- ・新時代に適応した研究力の向上
[国際協力研究科]
[総合政策学部]
- ・先端的・萌芽的研究の社会実装支援
- ・若手教員研究支援
[外国語学部]
[研究推進センター]
[データサイエンス教育研究センター]
- ・AI 関連の共同研究の継続
- ・共同研究体制の立ち上げ
- ・数理・データサイエンス・AI 教育のための教材開発
- ・統計分析サポートの充実
- ・統計分析サポートの範囲拡大の検討
- ・AI 活用サポートの検討
[地域連携センター]
- ・地域総合研究所の活動充実
- ・杏林大学地域総合研究所の活動の継続と発展
[男女共同参画推進室]
- ・研究支援/キャリア形成の支援
- ・教職員および学生のキャリア形成を支援する
[図書館]

5 社会連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

- [総合政策学部]
- [学生支援センター]
- ・部活動の活性化と学園祭の更なる発展
[広報部門]
- ・杉並病院広報の強化・拡充
[地域連携センター]
- ・地自体との連携強化
- ・連携自治体を舞台とした産学官連携活動の強化

6 医療・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

- [付属病院]
- ・地域社会に根ざした、あたたかく良質な医療を継続して提供できる体制を強化する
- ・先進的な技術の導入を進め、医療の革新と質の向上を図る
[杉並病院]
- ・高齢者救急の入院では、退院後の受入先と連携を密にし、地域完結型医療に貢献する
- ・地域との連携を強化し、効率的な医療提供体制の構築と地域医療支援病院を目指す
- ・DX 化の推進により業務の効率化を図り、人手不足や業務過多の改善と医療の質を向上させる

[広報部門]

- ・ 対外発信力の強化
- ・ 大学・三鷹本院のウェブサイト整備
- ・ 広報媒体の整理・統合
- ・ 杉並病院広報の強化・拡充

[付属病院]

- ・ 継続的な事業活動を支える堅実的な財務基盤を確立する
- ・ 社会情勢を踏まえてデータに基づいた包括的な経営努力を継続するとともに、病床運用の適正化を図る

[杉並病院]

- ・ 地域に良質な医療の提供体制を継続するために経営の改善を図る

[国際交流センター]

- ・ 海外協定校からの留学生の受入強化

[男女共同参画推進室]

- ・ 人材育成

[保健センター]

- ・ 職員メンタル不調者を減少させる

[総合情報センター]

- ・ 情報セキュリティ対策の強化と情報セキュリティ教育の推進
- ・ 事務環境の整備・改善への貢献

[経理部門]

[総務部門]

- ・ 私立学校法改正による対応
- ・ 公益通報窓口の整備
- ・ 内部統制システムの整備

[人事部門]

- ・ 優秀な人材の確保
- ・ 人材育成による組織力強化

1 教育

- ①学生の多様性を尊重し、個々の個性を最大限に引き出すことで、目まぐるしく変化する社会で活躍できる人材を育成する。
- ②アセスメント・プランに基づき教育効果を測定し、その結果を教育活動の改善に反映させることで、自律的かつ継続的な教育の質保証を実施する。
- ③医療保健学系と人文社会科学系の特色を活かした領域横断的なプログラムの提供により、杏林ならではのユニークな見識を備えた人材を育てる。

〔医学部〕

継続的な教育の質保証の実現性に向けて、既存の PDCA サイクルを担う実施部門の活動が 3 ポリシーに基づいて実施されているかの評価指標を策定する。

〔保健学部〕

学部志願者を確保するための将来構想の提案

18歳人口は2024年から2034年の間は100万人台で推移するものの、その後急激に減少し始め2040年には81万人までに減少する。18歳人口の減少は大学受験者数の減少に通じ、学部の安定的な学生確保に影響を与える。そこで、18歳人口が100万人台で推移する間に安定的な学生確保のための対策を検討する必要がある。

初年度は保健学部の現状分析と対策の検討を行うこととし、学部の将来展望と構想をまとめ提案したい。具体的には近年の学部志願者数の増減を分析し、特にそれが減少傾向にある学科・専攻においては、その理由を探る。次に学科・専攻の構成、名称、また募集定員数の妥当性を検討する。さらに各学科・専攻のブランド力として謳える特色を打ち出す。

国内外大学間連携の強化

保健学部の海外研修は、語学研修と専門研修（海外の各学科関連大学での研修）より構成されている。海外研修は幅広い教養と医療知識を身につけることのみならず、多様な価値観と異文化理解を進めることで教育の質向上につながる。しかしながら令和2年以降、新型コロナウイルスの世界的流行により、保健学部の海外研修は実施できない状況が続いている。そこで、新型コロナウイルス感染症の流行以前のように海外の大学等との交流を進め、多くの在学生の海外研修を促進する。

令和7年度は、海外研修を行う学生数を30人以上にする。

〔総合政策学部〕

総合政策学部では、2026年度に新カリキュラムが始動する。例えば、新しく設置される科目の「課題発見演習」などは、実際に進めてみないと、未知数な点多々ある。事前にどれだけのシミュレーションを行うのかが大事となってくるので、プレゼミ担当教員との綿密な打ち合わせを行う必要があると考える。

総合政策学部では、授業評価アンケートの回収率が18%前後で推移しているため、データに客観性を持たせるためにも、まずは回収率を上昇させていくことが大事であると考え。その上で、授業満足度の平均値を上げていく必要があるため、回収率の上昇に対する施策を検討していく。

総合政策学部では、数年前より「GPS-Academic」から「PROG テスト」へと学生のアセスメントプログラム（社会で求められる汎用的な能力・態度・志向のこと）を変更した。このテストは、在学中、2 回受検することによって、その成長率を確認することになっているので、引き続き、1 年生には受検を行ってもらい、100%に近い受験率を目指していく。

[外国語学部]

- ①運営委員会において、外国語学部に適応した教育評価の全体設計と数値目標を決定、改善に取り組む。
- ②新カリキュラムを視野に入れた評価項目の見直し

[医学研究科]

大学院生確保を目指した教育・研究支援体制整備のための取り組み

- ・専攻統合後の研究指導体制の検討を継続し、基礎系・臨床系教室が協働して大学院生の指導を行う枠組みの確立を推進する。
- ・研究活動の促進と大学院志願者の増加を目的とし、研究交流会を医学部学生にも広く開放することで、早期段階からの研究意欲の向上を図る。

学際的な教育・研究体制を強化するための取り組み

- ・指導教員の研究指導能力向上のため、研究に関連するFD及び特別講演会の実施を継続し、更なる充実を図る。
- ・研究進捗状況報告書の活用を促進し、学生一人一人に寄り添ったきめ細かい指導方法の確立を目指す。
- ・大学院教育の柔軟な運営を推進するため、中間報告会・講演会等のオンライン及びオンデマンド配信の活用を継続しつつ、対面実施のメリットも考慮したハイブリッド形式の最適化を図る。

論文の質向上を目指した取り組み

- ・学位論文の質向上と標準修業年限内での学位取得率向上を目指し、論文指導体制及び審査体制の見直しを継続する。
- ・中間報告会の実施方法や研究進捗状況報告書の確認方法を更に充実させ、学生の研究進捗をより詳細に把握し、的確な指導を行う体制を強化する。

[保健学研究科]

大学院教育の質の向上

アセスメント・プランに基づいた教育効果の測定を継続し、得られた教育効果に関する結果を、実際の教育・研究活動に反映させる上で障壁となっている点を抽出する。

[国際協力研究科]

新設置の日本語ライティングセンターを活用し、日本語を母語としない学生を対象とした日本語学習支援を重点的に行う

〔データサイエンス教育研究センター〕

MDASH リテラシーレベルの認定継続

文科省は文理を問わず全ての大学生、高専生に対する数理・データサイエンス・AI教育の普及を目指し、令和2年度から、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(Approved Program for Mathematics Data Science and AI Smart Higher Education、以下MDASH)を開始した。本学は令和4年度にMDASH リテラシーレベルに申請し、問題なく文科省からの認定を獲得した。令和7年度においても、引き続き数理・データサイエンス・AI教育の全学的な取り組みを続け、MDASH リテラシーレベルの認定を継続する。

MDASH 応用基礎レベルの認定継続

MDASH 応用基礎レベルは、自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力の習得を目的とし令和4年度から認定が開始された。本学では、令和5年度総合政策学部を対象に申請を行い、問題なく文科省から認定を獲得した。令和7年度においても、総合政策学部における取組を継続し、MDASH 応用基礎レベルの認定を継続する。

応用基礎レベル教育の横展開の検討

MDASH 応用基礎レベルの認定対象は総合政策部のみである。他学部への横展開が可能であるかの検討を進め、その展開計画を策定する。

オンデマンド教材の改定

当センターではMDASH リテラシーレベル獲得のための施策として、認定条件に則したデータサイエンスのオンデマンド教材の開発を行っており、令和4年度に全学的な展開を行った。令和7年度においても引き続き受講学生からのフィードバックを受けてオンデマンド教材の漸進的な改定を行う。

〔国際交流センター〕

学生の海外留学・研修の促進

- ・ 交換留学など互惠関係の構築が可能な海外大学を開拓し協定を締結する。
- ・ 既存協定校に交渉し交換留学枠を拡大する。
- ・ 留学報告システムとループリックを活用し留学効果の測定を行う。
- ・ 国際交流センターの留学情報ウェブサイトを整理して導線を改善する。

大学のグローバル化促進

- ・ 井の頭、三鷹両キャンパスの国際交流業務を統合し、大学のグローバル化促進を図る。
- ・ 井の頭、三鷹両キャンパスの日本人学生、留学生、教員の交流を図るため国際交流の集いを開催する。

〔地域連携センター〕

学部間連携による学生の多様性尊重

地域志向教育・社会貢献活動を通じた学内連携の促進

医学部付属病院を含めた学内での地域交流活動情報を収集するとともに、学部間連携による「本学ならではの」地域志向教育・社会貢献活動について地域交流委員会を中心に企画検討する。その取り組みについては、学外地域を対象とした教育・研究活動のスタートアップへの補助である「地域活動支援事業」を通じた支援を積極的に行うとともに、「地域総合研究所フォーラム」

や「公開講座」開催にて公開していく。

またその目標として「地域総合研究所紀要」は5件以上の研究成果発表を目指し、「地域総合研究所フォーラム」では参加者の65%以上が、「公開講座」では参加者の70%以上が満足できることを目指す。

〔男女共同参画推進室〕

多様性の尊重

多様性を尊重し、男女共同参画の推進に貢献できる人材を育成する。

- ・多様性を尊重する組織・風土をつくるには、一人一人がそれぞれの個性を理解することから始まる。継続して実施してきた「多様性について考える」セミナーを開催する。
- ・多様性に係る情報を収集し、時期を逸することなく提供する。

〔総合情報センター〕

ネットワーク・システム・機器等の更新

井の頭キャンパス開設から9年を経過し、ネットワーク・システム・機器等が順次保守期限を迎えている。また、三鷹キャンパスのネットワーク・システム・機器等も老朽化が顕著にみられる。そのため、令和7年度は、安定稼働の継続を目的に優先度に基づいた下記更新を推進する。

- ・井の頭キャンパスのネットワーク・機器等の更新（4年計画の4期目）
- ・三鷹キャンパスのネットワーク・機器等の更新（3年計画の1期目）

DX時代に即応した教育・研究環境等の整備・向上

本学では学生に個人PCを持たせ、BYODを推進してきた。また、貸出PCの充実や証明書発行機の電子マネー対応等、時代に合わせた対応を行ってきた。令和7年度は、さらに大学DXの範囲を広げていく。

- ・学生の持込PCやスマートフォンから印刷できるシステムの導入
- ・学生出欠管理・施設予約システムの更新
- ・看護学科PC教室の更新

2 学生受入

①多様な入試制度を効果的に活用し、高い潜在力を持つ個性豊かな学生を受け入れる。

②円滑かつ信頼性の高い入学者選抜を実施する。

〔医学部〕

入試実施前や入試実施後の総括評価を行う組織体制の見直しを行い、学内外からの信頼性及び透明性のある入学者選抜を実施するべく、体制の見直し及び整備を行う。

〔保健学部〕

高大接続の推進と優秀な学生の確保

令和6年度の保健学部入試では、786名の募集定員に対して6,127名の志願者が集まった。募集人員に対する総志願者数は順調に受験生が確保されているが、健康福祉学科、臨床工学科、臨床心理学科では志願者数の減少傾向が認められ、また、他の学科では入学者の学力低下が指摘されている。令和6年、保健学部は4つの高校と協定を締結し、学部説明会、高大接続授業を実施し、教育

交流・連携活動を開始した。

そこで、協定校との高大接続を更に推し進め、協定校から優秀な学生の確保を行う。

令和7年度は、早期に協定校3年生に向けて学部及び協定校入試について説明会を行い、20人以上の入学生を迎え入れるようにする。また夏～秋に1～2年生に対し学部説明会を行う。

〔総合政策学部〕

入試区分（一般選抜、大学入試共通テスト利用選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜）ごとに異なるタイプの受験生を確保する

KPI：総合型選抜・学校推薦型選抜での入学者確保（75%）

入学者数 入学定員の104%（240名）以上の確保

円滑かつ信頼性の高い入学者選抜を実施する。

KPI：入試実施ミス 0

〔外国語学部〕

①受験者の動向変化に合わせ、選抜制度や定員の割り振りなどを継続的に検討する。

②年内入学者の目標数を設定し、達成するための諸活動を行う。

〔保健学研究科〕

社会人特別選抜や長期履修制度の広報活動強化

「多様な人材に門戸が開かれていることを周知する」という観点から大学院ホームページ、大学院紹介、入学説明会の内容を点検する。長期履修制度についてのアンケート調査を実施し、多様な学生の支援という観点から運用状況の点検を行う。

〔国際協力研究科〕

現在の入試（ペーパーテスト）の見直しを検討する。

〔入学センター〕

多面的・総合的入学者選抜による定員管理

「大学入学者選抜実施要項」に定める「試験期日等」を遵守するため、医学部をはじめ全学部において一般選抜試験を2月1日以降に実施する。各学部・学科のアドミッションポリシーを見直し、多面的・総合的入学者選抜を行う。前年度入試結果を踏まえ、入試区分ごとの配分を見直す。医学部は地域枠増大を図る。保健学部は学科間の定員充足率を鑑み調整を図る。総合政策学部・外国語学部は定員未充足に陥らない選抜方法を検討する。

多様な学生の受入れ促進

多様な学生の受入れを促進するために、転編入学の増加を図るための定員管理の見直しを行い、外国人留学生の受入れを促進する。国際交流センターと協働し、インターネットからの手続きができる環境を整え、協定を締結した海外の大学に適時に大学の情報を提供して、特に総合政策学部・外国語学部の外国人留学生転入学選抜（海外協定校制）において、優秀な学生の受入を促進する。

高大連携協定校からの入学者増

高大接続推進室と連携しながら、学校推薦型選抜・総合型選抜における高大接続を強化し、高大連携協定締結校との円滑かつ信頼性の高い入学者選抜を実施し、年内入試での入学者確保を目指す。保健学部・総合政策学部・外国語学部の高大連携締結校からの志願者の選抜において、各学部とともに本学を志願しやすい選抜方法の導入を検討する。高大連携締結校から総合政策学部・外国語学部それぞれ10名、保健学部20名の推薦者を目標にする。

信頼性の高い入学者選抜の実施

入試実施に当たり、出題・合否判定ミス等の入試ミスを防止し、入学者選抜の円滑な実施に万全を期す。信頼性の高い入学者選抜実施のため、多面的・総合的な評価・判定方法を導入する。医学部は一般入試において面接・小論文を課し評価・判定する。保健学部・総合政策学部・外国語学部は、前年度入試結果を踏まえ、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜における選考方法を年度ごとに検討する。その際、補助金の申請要件等に課される「大学入学者選抜実施要項」の項目遵守に配慮しながら、志願者数増大、定員充足率増大を図る。

円滑な入試広報・入学者選抜の実施

広報室、IR推進室と連携し、高校生が閲覧・利用するSNS（LINE、Instagram、TikTok等）のメディアを用いて各学部・学科に在籍する学生からの情報を積極的・継続的に発信する。受験生向けのコンテンツ発信を強化し、低学年から杏林大学のブランドイメージ形成と浸透を図る。「人に優しい」「AIにできない」「感性・人間性」等のキーコンセプトを基に大学・学部のブランディングを行い、オープンキャンパス参加者数・志願者数の増大を図る。

【国際交流センター】

海外協定校からの留学生の受入強化

- ・留学生増加のため海外協定校に対して広報活動を行う。
- ・転入学入試と大学院推薦入試の対象となる海外協定校と協定書の整備を進める。
- ・大学院進学促進のため派遣・交換留学生と転入学生に対し案内と支援を行う。

【高大接続推進室】

ラウンドテーブル定期開催と連携協定締結校との関係強化

高大接続ラウンドテーブルを年2回定期開催し、教育現場の現状及び発展的な高大接続の在り方について意見交換及び情報共有を行う。高等学校教員に向け本学の魅力を継続的に発信し、連携協定締結校との関係を維持・強化していく。

ブリッジ授業の継続実施

ブリッジ授業を継続して実施し、連携協定締結校の生徒と学部・学科が相互に理解を深め、ミスマッチのない入学者選抜を実施する。これにより、本学に強い関心を寄せる生徒に入学への間口を広げ、受験者数ならびに入学者数の増加を図る。

連携協定締結校との入試改革の展開

連携協定を締結している高等学校と定期的に連携項目・内容の発展的見直しを行うとともに、本学入学センター及び各学部と随時高大接続に関わる入試戦略を検討する。これにより、連携協定締結校から優秀な入学者をより一層確保するための施策を展開する。

アドバンストプレイスメントの継続実施

アドバンストプレイスメントを継続し、高校生向けに春・秋学期に授業を開放する。特に、近隣の高等学校への働きかけを強化し、放課後にあたる5限の時間帯への参加を促す。また、高等学校と大学の時間割を考慮し、通常期の開講と併せて夏期・春期休業期間に集中講義を実施し、制度を維持・継続する。

3 学生支援

①教職員との接触機会を最大化することで、学生へ学修・生活面できめ細かい指導の充実を図る。

②学生一人ひとりの適性に応じたキャリアの追求を強力に後押しする体制を構築する

〔医学部〕

「学年・世代を超えた上下の結びつきを作る」とともに、「誰一人として孤立させない環境」を目指し体制を構築した学生による学生のためのコミュニティシステム（KyorinSCS）について、教員及び学生からの評価を元に見直しを図る。

〔保健学部〕

退学防止策

保健学部の退学率は、平成25年以降、学部系統別（保健医療系学部）の全国平均退学率を下回っている。しかしながら、令和4年には84名の退学者が出た。退学者の背景には新型コロナウイルス感染症の影響があると考えられるが、①進路変更（他教育機関への転学）②就学意欲の低下 ③心神耗弱を理由として掲げている。また、1、2年生の退学者が多いことが観察される。そこで、学生に対して教員側より勉学・生活面での声掛けを行い、学生にきめ細やかな指導を行う対策をとることで退学者数を減少させる。また、特に1年生の退学者では、入学後の①進路変更が退学理由として多いため、入学センターや広報委員会と連携し、保健学部の特性を受験生だけでなく保護者や高校関係者にも分かりやすく発信し、ミスマッチを低減させることで退学者数を減少させる。令和7年度は、退学者数を70名以内にする。

〔総合政策学部〕

退学者防止対策

教職員連携による退学者防止対策会議での検討：

これまで進めてきた各部署の教職員で構成する退学者防止対策会議での定期的な議論の場を継続し、退学者減少のための効果的な対応策を検討するとともに、学部教員に対する情報共有を進め、学生との面談や指導等に役立ててもらう。

退学者防止対策

学生との接触機会の強化：

これまで取り組んできた教員によるプレゼミナール学生及び演習学生への面談を継続していくとともに、さまざまな場面での学生と教員との接触機会を増やし、そこで気付いた点などについて、上記の退学者防止対策会議でも情報共有し、より有効な対応策が検討できるようにする。

①資格検定試験の支援

1 年次「ライフ・プランニング」の中で行うキャリアプラン策定過程において、学生時代の学びとして各種資格・検定試験の情報提供を強化し、課外学習始動を後押しする。特に、1 年次夏期休暇中、会計科目教員が開講する簿記検定対策講座の参加を促すとともに、1 年次秋学期の講義で取り組む FP 技能検定の学習を継続させ、受験に結び付けていく。2 年次以降は、専門分野の学びに応じた学習を演習科目やゼミ活動での指導を通じて支援する（宅建士、行政書士、司法書士、税理士、公認会計士、ロースクール受験、TOEIC 等）。

②インターンシップの促進・充実

1 年次からのインターンシップ参加を促し、将来の進路を考えるきっかけ前倒し、3 年次夏期休暇迄の参加を積極的に促す。2-3 年次選択科目「インターンシップ」の協力企業を拡大し、ボトム層のキャリア意識向上と主体的な進路決定を促進するとともに、就職率の向上を目指す。

③SPI 等適正試験対策の強化

2 年次「キャリア開発論」の中で SPI 等の学習を導入する。数回に 1 度、問題演習の機会を設け、成績評価の対象とすることで、学習継続の習慣化を行う。この取り組みを 3 年次「キャリア開発演習」まで継続し、就職活動につなげていくことで、大手企業への志願意識を高めていく。

④個別相談の強化

就職活動に困難を感じる学生に加え、企業就職以外の学生の多様な進路決定を支援する。ゼミ教員・教務課・キャリアサポートセンターの協働を目指す。

[外国語学部]

①学生生活に関する包括的な学生アンケートを実施し、その結果を分析、よりきめ細かい指導・支援のあり方を検討する。

②全学生を対象としたアカデミックアドバイザー面談の実施

[国際協力研究科]

生活面での指導・支援に関する学生アンケートを実施し、よりきめ細かい指導・支援のあり方を検討する。

[学生支援センター]

ピアサポート事業の継続

前年度に引き続き、図書館、教務課、キャリアサポートセンターなど、関係各部署と密接に連携し、ピアサポート事業を継続していく。2024 年度同様、サポートをする学生の成長を重視した活動になるように進めていくとともに、学生の参加を促進する。

三鷹キャンパス学生相談室の環境改善

前年度に移転が決定した三鷹キャンパス学生相談室の移転作業及び環境整備を進める。具体的には、照明等の設置や会話内容が聞こえないようなレイアウトを工夫し、学生が安心して相談できる環境を整える。学生相談室の利用についても再周知を実施し、三鷹キャンパスの学生の利用促進を行う。

障がいのある学生への支援体制の推進

障がいのある学生への合理的配慮が 2024 年 4 月から義務化され、本学においても、その基本方針及び規程の整備が完了した。2025 年度は、増加傾向にある支援学生への受け入れ態勢及びフォロー体制の更なる充実を図り、学生の満足度向上につなげる。前年に引き続き、各種講演会の参加、他大学との情報共有を行い支援体制の強化を推進する。

退学防止対策の推進

前年度に引き続き、入学センター、教務課、キャリアサポートセンターなどと連携し退学防止対策を継続して進める。特に、学生が困難に直面した場合に、適切な支援を受けられる体制を整えることが重要なので、部署横断的な形で職員と学生との接触機会を増やし、かつ教員とも情報共有を進めて支援体制を整える。

修学支援新制度や学内外の奨学金への対応

2024 年度に「杏林大学奨学金」の制度を改変し、応募へのハードルを下げ、かつ広く給付する仕様にしたことで多くの学生にとって経済的支援として、より下支えできる制度となる。また、「海外研修・留学奨学金」の制度改変も進め、多くの学生が利用しやすい支援制度としていく。これらの制度改変に合わせて、奨学金への応募者数増加につなげる施策を検討する。

修学支援新制度を含む学内外の奨学金の対応は学生支援センターの業務にとって負担は大きいが、関係部署との緊密な連携による効率化と業務の見直しによるスリム化を図ることで、学生への利用促進と負担軽減を両立させる。また、前年度に導入を見送った奨学金管理システムについても検討を進め、業務内容の効率化を図っていく。

【キャリアサポートセンター】

コロナ禍が明けた 2024 年卒以降、大卒求人倍率は 1.7 を超え、数字上は売り手市場が続くが、想定不能なイベントリスクによる市場の急変などに備え、日々の社会情勢に注視し、業界・業種別の経営環境及び採用動向などを細かく分析していく。

「就職率」だけでなく、学生個々の希望や適性を見極めたキャリア支援の“質”にも拘りをもって臨めるよう、学部との情報共有を前提に早期の支援ニーズの把握に努めていく。

採用に直結するインターンシップの解禁など採用活動の更なる早期化に備え、就職活動を控えた 3 年生はもとより低学年にも早めの意識づけができるよう、支援プログラムについて内容や実施時期の見直しを図っていく。

【国際交流センター】

留学生の支援体制の構築

- ・新規開室する日本語ライティングセンターの運営を軌道に乗せる。
- ・協定校入学生向けに新設された奨学金の支給体制を学生支援課と協力して整備する。
- ・寮の学生アシスタントとの協力体制強化により留学生サポートを充実させる。
- ・留学生向けの校外研修を実施する。
- ・卒業した留学生と在学留学生との交流イベントを実施する。

[男女共同参画推進室]

研究支援/キャリア形成の支援

若手及び女性研究者育成のための支援を推進する。

- ・研究支援制度の仕組み、有用な活用事例を紹介することにより研究支援員制度を周知する。
- 教職員及び学生のキャリア形成を支援する。
- ・キャリアを考えるうえでのロールモデルの提示を目的として、ランチョンセミナー「そうだ〇〇先生に聞いてみよう」を開催する。
 - ・学生によるロールモデルインタビューの実施と原稿化し HP にアップするチームを編成する。

[保健センター]

学生健康診断の充実

現状にとらわれず、健康診断やワクチン接種等、効率的に進めることで時間的な学生への負担を軽減する、また、実習の関係で健康診断の結果を早期に必要なため、検診後 1 ヶ月で学生への報告を行う、また、メンタル不調の学生に対して教員や学生支援課と共有を図り学生生活を充実できるようなサポート体制の強化を行う。

[図書館]

学生 1 人ひとりに応じた学習支援サポートをするため、支援内容や範囲を図書館内で確認する。学生には学習支援サービスを行っていることを周知するように努める。

4 研究

- ①社会に貢献することのできる先端的な研究シーズの創出を支援する。
- ③学部を越えた学際的な研究環境を構築する
- ②若手研究者育成のための支援体制を整備する。

[医学研究科]

大学院生確保を目指した教育・研究支援体制整備のための取り組み

- ・専攻統合後の研究指導体制の検討を継続し、基礎系・臨床系教室が協働して大学院生の指導を行う枠組みの確立を推進する。
- ・研究活動の促進と大学院志願者の増加を目的とし、研究交流会を医学部学生にも広く開放することで、早期段階からの研究意欲の向上を図る。

学際的な教育・研究体制を強化するための取り組み

- ・指導教員の研究指導能力向上のため、研究に関連する FD 及び特別講演会の実施を継続し、更なる充実を図る。
- ・研究進捗状況報告書の活用を促進し、学生一人一人に寄り添ったきめ細かい指導方法の確立を目指す。
- ・大学院教育の柔軟な運営を推進するため、中間報告会・講演会等のオンライン及びオンデマンド配信の活用を継続しつつ、対面実施のメリットも考慮したハイブリッド形式の最適化を図る。

論文の質向上を目指した取り組み

- ・学位論文の質向上と標準修業年限内での学位取得率向上を目指し、論文指導体制及び審査体制の見直しを継続する。
- ・中間報告会の実施方法や研究進捗状況報告書の確認方法を更に充実させ、学生の研究進捗をより詳細に把握し、的確な指導を行う体制を強化する。

研究環境の整備を目指した取り組み

- ・共同研究施設の管理体制を見直し、より効率的な運用と研究者の利便性向上を目指す。
- ・科学研究費補助金及び学内予算を活用し、必要機器の整備・更新を継続する。

【保健学研究科】

新時代に適応した研究力の向上

生成系 AI 等に関する講演会を開催し、AI を研究に用いる際の利点・問題点について理解を深め、利用の際の注意点に関する意識を高める。大学院生に対する「研究力向上セミナー」の開催等、若手研究者に対する丁寧な支援体制構築の方策を検討する。

【国際協力研究科】

キャンパス内の FD プログラムに対する大学院生の参加意識向上を図る。

【総合政策学部】

先端的・萌芽的研究の社会実装支援

総合政策学部における研究・教育は、学部コンセプト自体が社会の事象を対象としており、社会へのフィードバックを想定していることから、「社会実装」の方向性は既に組み込まれている。先端的・萌芽的研究に対しては、個人研究費拠出金の分配を通じて支援する。分配された拠出金による研究成果について、異なる専門分野の教員が複数参加する杏林社会科学学会定例研究会における報告を通じた多角的ピアレビューを実施する。また、企業、政府や自治体等公的機関、NGO 等との連携を深める。

若手教員研究支援

個人研究費拠出金を若手教員へ優先的に分配し、研究基盤の拡充を支援する。杏林社会科学学会定例研究会における報告を通じた、ベテラン教員によるピアレビューを実施する。

【外国語学部】

- ①期中に専任教員全員との対面による面談を実施し、研究意識を高める。
- ②①を通じて、学部内の研究シーズの収集・整理を行う。

【研究推進センター】

- ・先端的なシーズにつながるような研究を支援するため、共同研究施設を中心とした研究施設と備品の整備を行う。
- ・研究成果の発信支援として、英語論文執筆や英語によるプレゼンテーションに関するセミナー・ワークショップを開催し、英語論文の増加を図る。
- ・研究した成果を社会実装へつなげる取り組みとして、特許出願など産学連携に必要なステップを支援する。

・国の機関をはじめ公共団体や各種団体が公募するプロジェクトの情報を収集し研究者に提示して、シーズの社会実装につながるようなマッチングを支援する。

・研究資金申請未経験の特に若手研究者を対象に、ファーストステップとなる研究計画の策定、研究計画調書の作成に関する勉強会・チュートリアルを実施する。初期研究者となる大学院生も対象に加えて支援を行う。

・各種補助金・助成金等の採択数向上を目指して、過年度の状況を検証・分析のうえ、必要な情報提供、コーディネートをきめ細かく行い、研究資金獲得セミナー・ワークショップ等と連動した支援を実施する。

・幅広い学問領域を網羅する総合大学の特長を活かし、学際的な研究を行う体制を構築する。

・科研費間接経費の執行も含め、三鷹・井の頭両キャンパスで研究者が要望する設備・備品の整備を進める。また、既存施設・設備については、共同利用を積極的に推奨し、限りあるリソースで最大限の効果が得られるよう、有効活用を促す。

・研究を進めるうえで重要な研究倫理観涵養のため、研究に携わる全ての者に APRIN による e-learning の受講を必須とし、学術研究の信頼性と研究費執行の透明性を高める。

・安全保障リスクや研究活動における不正行為の抑止に対処するため、安全保障貿易管理の理解促進や不正行為防止に関する講演会開催などの取り組みを推進する。

〔データサイエンス教育研究センター〕

AI 関連の共同研究の継続

令和 6 年度も令和 5 年度に引き続き、AI 関連の共同研究を推進した。具体的には、保健学部との共同研究を 1 件、医学研究科との共同研究を 2 件行い、英文論文 1 件、国内発表 1 件などの成果を得た。本年度も引き続き保健学部、医学研究科との共同研究を継続的に実施する。

共同研究体制の立ち上げ

共同研究のフェーズ定義、管理体制の明確化、共同研究窓口の設置等の施策により効率的な運営体制の構築を行う。

数理・データサイエンス・AI 教育のための教材開発

MDASH リテラシーレベルの内容に準じたビデオ教材・ウェブテストの精緻化を行う。教材やテストなどの作成に生成 AI の利用も取り入れ、多面的な方向からの教材開発を行う。

統計分析サポートの充実

本年度は、昨年度に引き続き、統計分析サポート効率化と充実を図るために次の 3 項目の実施を検討する。

- ・ FAQ 作成による「よくある質問」への負担軽減
- ・ 質問内容の類型化による担当者アサインの簡略化
- ・ 統計分析サポートページの立ち上げや、FD 開催等による統計分析に対する啓蒙促進

統計分析サポートの範囲拡大の検討

現在のところ、統計分析サポートの対象は、医学研究科のみであるが他学部に対象範囲の拡大を検討する。本年度は保健学研究科への運用開始を目指し計画を進める。

AI 活用サポートの検討

近年、生成 AI の進展は目覚ましく、その影響は情報関連ツールの枠を超え、教育や研究のあり方を根本から変革する可能性を秘めている。こうした状況を踏まえ、本年度は生成 AI 中心として AI 全般の活用について、どのような支援や啓蒙を行うべきかの検討を行う。

〔地域連携センター〕

地域総合研究所の活動充実

杏林大学地域総合研究所の活動の継続と発展

地域社会を舞台とした研究に対する学内外のニーズは高いことから、これまでよりも視野を広く持って機動的に動くことができる組織として地域総合研究所の活動を推進していく。特に学部間連携による新規性の高い研究活動の立案・実施に注力する。その目標として 10 件以上の研究活動支援を目指す。

〔男女共同参画推進室〕

研究支援/キャリア形成の支援

若手及び女性研究者育成のための支援を推進する。

- ・研究支援制度の仕組み、有用な活用事例を紹介することにより研究支援員制度を周知する。

教職員及び学生のキャリア形成を支援する

- ・キャリアを考えるうえでのロールモデルの提示を目的として、ランチョンセミナー「そうだ〇〇先生に聞いてみよう」を開催する。
- ・学生によるロールモデルインタビューの実施と原稿化し HP にアップするチームを編成する。

〔図書館〕

2025 年度採択分の競争的研究費での研究成果からは、論文などの即時オープンアクセス化が求められている。オープンアクセス化を実現するための学内的な整備を行う。

5 社会連携

①医療の提供を含む大学の資源を、地域活性化に結びつける体制を強化する。

②共通の大方針に基づいた自治体との協力関係を構築し、地域連携の一層の深化を図る。

〔総合政策学部〕

総合政策学部が有する教育資源に基づき、地域活性化に資する取り組みを促進させる。とりわけ現在、総合政策学部では、現在コミュニティ・ベースド・ラーニング（CBL）を通じて学生たちが夏期及び春季長期休暇最中に日本全国の自治体に地域留学を実施している。地域留学を実施するための事前教育（CBL 概論）の内容をより充実させるとともに、20 名の学生を各地域に派遣する。

杏林大学では現在、三鷹市、武蔵野市、羽村市の近隣自治体、宮城県石巻市、東松島市、静岡県東伊豆町、愛知県田原市の遠方地域、また三菱地所レジデンスやアトレヴィ三鷹などの企業と連携協定を締結している。これら連携協定を締結している各ステークホルダーと総合政策

学部の各研究室が協定に基づき研究やプロジェクトを企画し、実施するための計画を構築していく。

〔学生支援センター〕

部活動の活性化と学園祭の更なる発展

コロナ禍で低調となった部活動を活性化させるべく、部活動に対する情報提供機会を増やすことを検討する。

杏林祭は前年に引き続き対面で開催し、医学部生も参加した全学的な学園祭となった。学生運営団体も十分な人員が集まり運営体制も強化された。2025 年度は前年を上回る集客数とイベントの拡充を目標とする。各企画や飲食ブース（模擬店）の拡充等学生のモチベーション向上を図り、全学体制による杏林祭運営体制を早急に進めると共にノウハウの蓄積による運用マニュアルの作成を行う。

また、杏林祭実行委員会やボランティア部等の大学組織が地域社会との密接な関わり合いを持てるよう、情報の提供・イベント参加などを通じてボランティア活動を促進する。

〔広報部門〕

杉並病院広報の強化・拡充

杉並病院のウェブサイトリニューアルの第 2 期を実施するなど情報発信の体制を強化し、患者や地域住民の認知度向上を図ると同時に病院経営の安定化にも寄与する。

日常及び緊急時の広報業務をそれぞれの確に遂行できるよう、杉並病院とのコミュニケーションを密にすると共に、業務の進め方や分担等を整理し、杉並病院の広報機能を大幅に強化する。

〔地域連携センター〕

地自体との連携強化

地域連携センターは自治体との連携強化により、地域間連携を強化していく。

以下に地域連携センターの活動指標を示す。

- ① 学生と地域関係者が共に学ぶ「生きがい創出」
- ② 退職団塊世代を中心とした地域の人々の「健康寿命延伸」
- ③ 大規模自然災害に備える「災害に備えるまちづくり」
- ④ 地域の活性化を目指す「にぎわい創出」
- ⑤ 地域社会での多様性のある教育

これら 5 項目を主軸として地域連携、産学連携、学部間・学科間連携を強化していく。これらの取り組みを通じて学内連携を深め、本学の特性を活かした地域貢献プログラムの充実と教育・研究体制の強化を図る。社会貢献活動 13 件以上の支援を目指す。

連携自治体を舞台とした産学官連携活動の強化

今までの取り組みから更に社会実装を充実させる。

地域連携センター・地域総合研究所を核とした地域志向研究の取組内容に合致した地域を舞台とした活動を推進していく。活動においてはその例として、外国語学部観光交流文化学科と保健学部連携によるウェルネスツーリズム推進による専門性の拡がりを地域貢献に活かすなど新しい取り組みを積極的に進め、さらなる社会実装を実現し、また学生教育の対象を拡げる。また三鷹市役所・三鷹市教育委員会と連携し、「子育て・教育支援」の活動を発展させていく。そしてこれらを通じて、本学の特性を活かした教育のあり方を確立していく。その目標として

同市内の小中学校において、学生の教育支援参加数 15人以上を目指して支援する。

6 医療

①地域社会に根ざした、あたたかく良質な医療を継続して提供できる体制を整備する。

②先進的な技術の導入を進め、医療の革新と質の向上を図る。

〔付属病院〕

地域社会に根ざした、あたたかく良質な医療を継続して提供できる体制を強化する

地域社会のニーズにあった効率的な病床運営（病床管理の中央管理化）とそれに伴う救急受入体制整備

- ・ PFM の導入：システムによる病床管理と入退院支援体制への効率的資源配置
- ・ ATT オーバーナイト入院の開始
- ・ 集中治療部門の病床数見直し

地域医療に根ざした紹介・逆紹介システムの構築

- ・ 紹介・逆紹介システムのオンライン化

医師を含めた勤務環境を改善しつつ大学病院として質の高い医療提供を可能にする人材の養成・確保

- ・ 医師の時間外勤務の適正化
- ・ タスクシフト・タスクシェア推進
- ・ 専門的看護師の育成

先進的な技術の導入を進め、医療の革新と質の向上を図る

質の高い臨床研究を実施するための臨床研究センターの設立

- ・ 臨床研究センターの設立

難病・がん診療はじめ各種拠点病院としての臨床実績、教育実績、社会貢献

- ・ 高度先進医療提供病院としての活動強化

〔杉並病院〕

高齢者救急の入院では、退院後の受入先と連携を密にし、地域完結型医療に貢献する

- ・ ATT 及び時間外診療の当直体制の見直しによる救急患者数の受入増加
- ・ 地域住民向けの健康教育と情報提供を積極的に行うなど予防医療を推進
- ・ 紹介患者数の増加

地域との連携を強化し、効率的な医療提供体制の構築と地域医療支援病院を目指す

- ・ 紹介受診重点医療機関の指定を受けて、地域の医療機関とより密接に連携
- ・ 登録医件数の増加を目指し、地域の医療機関への訪問を強化
- ・ 地域医療支援病院の承認に必要な要件の達成

DX 化の推進により業務の効率化を図り、人手不足や業務過多の改善と医療の質を向上させる

- ・ 電子カルテ入替えの為に委員会の設置とシステム及び機器選定等の開始
- ・ タスクシフト／タスクシェアの具体的な検討とその実施を推進
- ・ IC ナビシステム DX を用いた患者説明の開始
- ・ 医師事務作業補助体制の充実

7 経営

- ①人への優しさ、温かさに基づく医療・教育を通じて、杏林のブランドイメージの確立を目指す。
- ②ダイバーシティを尊重しつつ、優秀な人材の確保に努めるとともに人材の育成に向けた戦略を推進する。
- ③継続的な事業活動を支える堅実な財務基盤を確立する。

〔広報部門〕

対外発信力の強化

学園経営に直結する志願者や患者の増加に繋がるよう、大学・病院の多様な情報を積極的に発信する。志願者増加については、入学センターとの連携をさらに進め、より良い入試広報のあり方を追求し実践する。

大学・三鷹本院のウェブサイト整備

大学及び三鷹本院のウェブサイト整備を進める。情報発信の機能や学部紹介・病院紹介等のページの改善を行って発信力を高める。また、総合情報センターと連携して、セキュリティも十分に確保しつつ、ウェブサイトの安定運用をより一層推進する。

広報媒体の整理・統合

より効果的・効率的な広報を実施するため、学園案内、大学案内、大学新聞、広報誌あんずなど、発行物の整理・統合を検討する。できることから電子化やスクラップアンドビルドを進め、発信力を損なわない形で経費の削減を図る。

杉並病院広報の強化・拡充

杉並病院のウェブサイトリニューアルの第2期を実施するなど情報発信の体制を強化し、患者や地域住民の認知度向上を図ると同時に病院経営の安定化にも寄与する。

日常及び緊急時の広報業務をそれぞれの確に遂行できるよう、杉並病院とのコミュニケーションを密にすると共に、業務の進め方や分担等を整理し、杉並病院の広報機能を大幅に強化する。

〔付属病院〕

継続的な事業活動を支える堅実的な財務基盤を確立する

社会情勢を踏まえてデータに基づいた包括的な経営努力を継続するとともに、病床運用の適正化を図る

- ・ 病床運用（特に重症系病床）の適正化
- ・ 救急車受入実績
- ・ 加算・指導管理料算定実績

〔杉並病院〕

地域に良質な医療の提供体制を継続するために経営の改善を図る

- ・ 経営検討委員会を設置し、多方面にわたる経営の改善
- ・ 放射線画像検査枠の拡大と外部依頼件数の増加
- ・ 予防医学センターの健診者数の増加

〔国際交流センター〕

海外協定校からの留学生の受入強化

- ・ 留学生増加のため海外協定校に対して広報活動を行う。
- ・ 転入学入試と大学院推薦入試の対象となる海外協定校と協定書の整備を進める。
- ・ 大学院進学促進のため派遣・交換留学生と転入学生に対し案内と支援を行う。

〔男女共同参画推進室〕

人材育成

ダイバーシティを尊重しつつ、男女共同参画推進に貢献する人材の育成に努める。

- ・ ダイバーシティを尊重するために必要となるアンコンシャスバイアス（無意識のバイアス）に係る情報を収集し、時期を逸することなく情報を提供する。
- ・ マネージメント力の育成に係る情報を収集する。

〔保健センター〕

職員メンタル不調者を減少させる

早期発見、早期対応を進めることで休職、離職の防止を進める。ストレスチェックの充実を図り、カウンセラーとの連携強化を行い、未然にその要因を把握することにより効果的に対応を進めるサポートを行う。

〔総合情報センター〕

情報セキュリティ対策の強化と情報セキュリティ教育の推進

（ネットワークの安定稼働、教職員へのセキュリティ意識の浸透）

学園ネットワークの安定稼働の継続のため、以下に挙げるような技術的対策、及び人的対策（教職員向け情報セキュリティ教育）を推進する。

- ①令和6年度に発生した情報流出事案に対する技術的対策を講じる
- ②脆弱性診断の受診により情報セキュリティ課題を洗い出し、優先度に基づく対策を検討・立案する
- ③教職員に対して情報セキュリティ意識の斉一的な浸透・向上を図る
 - 基礎知識と最新動向を押さえたe-ラーニングの実施
 - 標的型攻撃メール訓練の実施
 - FD/SD研修会の開催、学園内の情報発信等の情報セキュリティ周知
 - 実施規程、実施手順、ガイドライン等の継続的な整備
 - 教職員によるセルフチェックの枠組み構築（“気づき”の促し）

事務環境の整備・改善への貢献

④2025年10月をもってWindows10のサポートが終了する。これに合わせ事務職員が業務用に使用するPCをWindows11版に更新する。加えて、情報セキュリティ面と資産管理面の整備・強化も実施する。

- ・ 事務用PCのWindows11版への更新
- ・ 資産管理ソフトの導入及び情報セキュリティ機能の配備

【経理部門】

令和３年度末に策定した「第２期中長期財務計画」が進行中であるが、その中で計画されていることを踏まえ、以下に重点を置き財務改善を行っていく。

①経常収支差額 10 億円を確保（毎期）

②キャッシュフローをコントロールし、運用資産（現預金・特定資産）と有利子負債とのバランスの継続的な改善を行う（net 運用資産を毎期 10～20 億円増加）

【総務部門】

私立学校法改正による対応

私立学校法の改正により、理事会と評議員会の機能や役割が変更され、より明確化されることや、理事や評議員の人員構成や任期の時期が変更になることから、滞りなく対応できるように準備を進める。

公益通報窓口の整備

公益通報窓口の設置の目的を明確にし、通報の受付方法等、通報手段の見直しを行う。また、通報窓口の体制を強化する目的として、通報者がより安心して通報できる仕組みを検討するとともに、外部への通報窓口の設置等通報しやすい体制づくりを検討する。

内部統制システムの整備

私立学校法の改正により、内部統制システムの整備が必要となり、「内部統制システム整備の基本方針」の策定と「コンプライアンス規程」を制定した。また、「危機管理規則」「監事監査規程」「内部監査規程」の一部改正を行い、業務を適正に遂行すべき、体制や管理体制の整備を行う。さらに、内部監査の計画的な実施と報告を行い、PDCA サイクルを回していく。

【人事部門】

優秀な人材の確保

杏林学園が求める優秀な人材を確保するため、就職説明会や見学会、学校訪問など、当方から積極的にアプローチし、年間を通じて採用活動を展開する。大学・病院を取り巻く環境の変化や業務高度化に対応すべく、中途採用、専門性の高い人材の採用を強化し、必要な人材を柔軟に補充していくことで、円滑な業務運営を実現していく。

人材育成による組織力強化

業務や OJT、OFF-JT、自己研鑽を通じて、人材育成と組織力強化を図る。階層別又は部門別に求められる知識・スキルを段階的に習得できるように、各職場における OJT や各種研修を実施すると共に、職員が業務知識を自ら学べるよう、学習機会の拡充・支援に努める。また、目標管理制度を更に活用し、個人の成長と上司の指導力向上を図っていく。

学校法人 杏 林 学 園

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

TEL 0422-47-5511 (代表)